



12月ほけんだより



ハート保育園

徐々に寒くなり、園でも咳や鼻水のある子が増えています。園ではまだ0歳の子もおり、体調を崩し重症化しやすいため、皆様の感染予防対策の御協力をお願いします。

今回は、冬場に流行しやすい疾患について説明させて頂きました。

1. インフルエンザ

<症状> 熱、頭痛、のどの痛み、鼻水、咳、関節痛、食欲不振等がある。重症化すると肺炎やインフルエンザ脳症を発症することもある。

<診断・治療> 症状が出たら、小児科等で検査をしてもらいインフル陽性なら内服治療薬があるので処方してもらいましょう。今年の冬は、コロナと同時にかかる可能性もある為注意が必要です。

<登園基準> 発症したあと5日経過し、かつ解熱した後2日経過している事。
(乳幼児にあたっては、3日経過している事)

2. ウイルス性胃腸炎 (ロタウイルス、アデノウイルス、ノロウイルスなどが有名)

<症状> ムカムカや嘔吐(回数はそれぞれである)嘔吐のあとは下痢がみられることが多い。発熱はあまり見られないが、時に高熱を出すこともある。

<診断・治療> 特別な治療法はなく、整腸剤の処方や、脱水予防の為にこまめな水分補給が必要です。あまり脱水症状がひどい場合は点滴等の処置を行います。下痢によるおむつかぶれがひどい場合は、軟膏を処方してもらいましょう。

<登園基準> 嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事が取れる事。

3. 溶連菌感染

<症状> 発熱(38~39℃)とどの痛み、しかし3歳未満ではあまり熱が上がらないこともあります。体や手足に小さい赤い発疹が出たり、舌にイチゴのようなブツブツが出たりします。頭痛、腹痛、嘔吐など。

<診断・治療> 迅速診断、培養検査、抗体検査があります。治療は抗生剤内服となります。決められた内服回数、日数を守りましょう。

<登園基準> 抗菌薬を飲み始めてから丸1日以上がたち、具体的には病院受診をした日から2~3日程度は登園を控えましょう。